

『至誠天に通ず』 小長啓一「人生を語る」(山陽新聞社刊)のご紹介

岡本文夫(元アラビア石油、元国務大臣政策担当秘書)

かつて、田中角栄通産大臣が総理大臣に就任する時、慣例では総理秘書官は大蔵・外務・警察の三省庁から任命されていたものを、小長・通産大臣秘書官をそのまま連れて官邸入りした。以来、通産省(現・経済産業省)からも秘書官を出す決まりとなった。つまり、小長さんの誠意溢れる人間性と卓抜な実務能力が、田中首相からそれほど頼りにされていたということだ。

筆者は、小長さんの率先垂範の責任感溢れる経営者ぶりに、命を救われた実感がある。アラビア石油副社長に招聘されて僅か1年半後、イラクのサダム・フセイン大統領の世紀の大暴挙・湾岸危機が勃発し、クウェイトは一日をもたずして陥落。クウェイト国境から僅か南18キロに基地を構える我々は生命の危機に瀕した。サウジ政府からは撤退禁止の厳命が下った。それでなくても、『カファラ制』という因習で、我々のパスポートは当局に召し上げられていた。当然の事ながら、会社は従業員の生命の安全確保をサウジ政府に申し入れなければならない。ところが、その最重要折衝の任に値するプロパー役員などひとりもないのが実情だった。

「私がナーゼル石油大臣と折衝しましょう」。

小長さんの一言で、下を向いてメモを取っていた全役員は頭を上げ、一斉に拍手したというから全く情けない限りだ。

社内で唯一アラブ人高官と折衝できる濱田明夫監査役(世界最古の大学・エジプトのアズハール大学出身)は、小長さんの意を戴して石油大臣官房への調整に先行した。

小長さんは、カフジの鉱業所に向かい、沸騰し崩壊寸前の人心鎮静に努めた。

「生命安全確保のために、ナーゼル石油大臣と折衝します。みなさんは各自の任務に励んで下さい」。

あの時程励まされたことはない!我々が万雷の拍手で小長さんの責任感を讃えたことは言うまでもない。

翌朝、会合場所のジェッダに向かう前、小長さんは全事務所を回って、国籍を問わず全従業員と激励の握手をされた。

半年後の湾岸戦争突入の前日午後、「明朝未明、何か緊急電話をするかもしれない」という謎めいた電話が入った。ナーゼル石油大臣が、小長さんの責任感溢れる経営者ぶりに敬意を表して、アブドルアジズ官房長に秘密電話を指示したものと、筆者は推察する。この連絡のお蔭で、最後まで現場を死守した 48 名の日本人従業員から死者は出なかった。

『政官財』に止まらず、法曹も含めた全領域で、国家や社会や組織のために貢献され続けた小長さんの人生の軌跡を網羅した名著のご一読をお薦めする次第です。



出版社：山陽新聞社（2025/8/28）

発売日：2025/8/28

言語：日本語

単行本：214 ページ

価格：2,200 円（税込み）

目次

口絵、刊行に寄せて p.1 から 16

至誠天に通ず—小長啓一「人生を語る」 p.17 から 105

資料編 p.116 から 200

うちアラビア・中東関連

p. 82 から 85 「アラビア石油 ～湾岸危機の中 操業決断」

p.86 から 89 「油田権益 ～延長失敗、今でも負い目」

p.143 から 150 山陽時事問題懇談会「中東とエネルギー」2002 年 7 月 1 日講演

p.151 から 156 山陽時事問題懇談会「世界の中の日本」2004 年 4 月 16 日講演

p.166 「中東情勢とエネルギー」山陽新聞記事 1992 年 2 月 25 日

小長啓一氏略歴：1930 年、岡山県備前市生まれ。岡山大学卒業後、通商産業省（現経済産業省）入省。田中角栄氏の首相秘書官など歴任し、84 年に事務次官。アラビア石油社長・会長を経る（1991 年から 2004 年）。1999～2011 年に東京岡山県人会長。2007 年に 76 歳で弁護士登録。岡山大の全学同窓会長も務める。

その他の著書『日本の設計ー通産省は挑戦する』1986 年、文春ネスコ